

中高生が知っておきたい ホントに大事なお金の話

— 第4回 — 講師：佐伯良隆 東京都金融広報アドバイザー

このコーナーでは、全国で活躍している金融広報アドバイザーによる誌上公開セミナーを行います。第4回の講師は東京都の佐伯良隆さんです。佐伯さんは、政府系金融機関や外資系投資顧問会社でキャリアを積み、現在は日本における金融教育をライフワークに掲げて活躍中。今回はとくに、中高生向けに行っているセミナーをご紹介します。



「お金の法則」 リスク・リターンを知ろう

世の中には「お金の法則」があります。ちょっと専門的な言葉でいうと「リスク・リターンの法則」です。リスクをとらなければリターンは得られません。このリスクを「危険なこと」と捉える人が多いのですが、金融の世界のリスクとは「変動の幅」を意味しています。

私たちがどのような職業に就いて、その付加価値をどうお金に換えるか（つまり稼ぐか）は、リスク・リターンの法則で説明ができます。プロスポーツ選手や芸能人、起業家として成功する人

なぜ、多くの大人がおいしいもうけ話にだまされるのか？

大切な **お金の法則** を知らないから

リスク・リターンの法則 幸せになるために
大切なお金の教養

ことわざ 虎穴に入らずんば、虎児を得ず。

No pain, no gain.

お金の世界では **No risk, no return.**

リスクをとらなければ、**リターン**は得られない。

不確実なこと

収益

確実に儲かるというおいしい話はない！
ただ飯はない There is no free lunch.

お金のプロは誰でも
知っている

宝くじの儲けの期待値は？ = **期待収益**

得られる儲け × 当たる確率 = **期待収益**
(リターン)

1等賞	2億円	1000万分の1	20円
前後賞	5000万円	500万分の1	10円
2等賞	1億円	1000万分の3	30円
3等賞	500万円	100万分の1	5円
4等賞	1万円	1000分の1	10円
5等賞	3000円	100分の1	30円
6等賞	300円	10分の1	30円

期待収益率 = どれくらい儲けられそうか

期待収益 … A 135円
支出額（宝くじ1枚あたりの値段）… B 300円
最終期待収益 … C (A-B) **-165円**
期待収益率 … (C/B) -55%

はリスクも大きい、リターンも大きい。会社員や公務員はリスク（成功と失敗の幅）が小さい分、リターンも小さいということになります。それぞれのリスク（変動の幅）に見合ったリターン（収益）が、「お金の法則」です。

だとしたら、「おいしい儲け話がありますよ。1000万円が5年で倍になりますよ」という言葉信じますか？ 必ず儲かるなんて、おいしい話は世の中にはありません。それは「お金の法則」に反しているからです。

しかし中には、「宝くじなら、楽しんで儲かる」という人もいます。3000円の投資

佐伯 良隆 (さえき よしたか)

政府系金融機関在職時、ハーバード大学経営大学院MBAを取得し、世界銀行や日本政府のプロジェクトとして諸外国で財務研修を担当。その後、米国投資顧問会社で金融アナリスト、ファンドマネージャーを経て独立。現在、グロービス経営大学院専任教授、英語教室代表を務める傍ら、東京都金融広報アドバイザーとして活躍中。著書には、「知識ゼロでも2時間で決算書が読めるようになる！」（高橋書店）、「日本人が教わらなかった 知っておきたいホントに大事なお金の話」（同）。

で2億円が当たったら、こんなにラッキーなことはありません。ただ、「期待収益率」の考え方を知っていれば、宝くじの仕組みは「ハイリスク・マイナスイターン」だということが分かります。

【金融広報アドバイザーとは】金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

期待収益率とは投資に対してどれだけ儲かる見込みがあるか、ということ。右下の表のとおり実は宝くじは、1枚300円のうち半分以上の165円は主催者に取られる仕組みです。つまり期待収益率はマイナス55%、非常に分の悪い投資です。枚数を買うほど当たる確率も上がりますが、費用も増えます。宝くじの収益金は社会の役に立っており、それ自体を否定するわけではありません。宝くじ1枚につき失う165円は「ワクワク・ドキドキ料」というところでしょう。

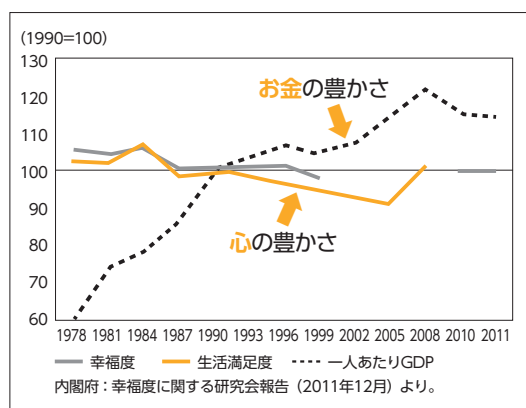
お金を稼ぐとは、 労働を通じて「価値」を 提供すること

「お金を稼ぐ」とはどういうことか、具体的に思い浮かぶ例はありますか？ 日本の中高生だと「おこづかい」はあっても、アルバイトの経験はあまりないかもしれません。アメリカではベビーシッターや芝刈り、手作りレモネードの販売などで、子どもときから「お金は労働の対価」ということを学んでいます。本来「お金を稼ぐ」というのは、「労働を通じて価値を提供する」ことです。衣食住に必要なものや、安心や

安全、医療や教育、レジャーなど、世の中には多種多様な価値がありますが、それはすべて、人が働くことによって生み出されているものなのです。つまり、お金を稼ぐということは、自分の能力を使って社会や人の役に立ていくことで、そのためにも自分の価値を高めていくことが大切です。学生の皆さんなら、今はしっかり勉強し、得意な分野を伸ばして将来に備えること。そして、お金のルールを知り、社会のために何ができるかを考えて仕事を選び、自分だけでなく人を幸せにするために働くことが重要だといえるでしょう。

幸せはお金で買えますか？

最後に「幸せはお金で買える



か？」ということを一緒に考えてみましょう。例えば、左上のグラフで見ると、約30年間で日本人一人あたりのGDPは約2倍になりましたが、幸福度はあまり変化していないようです。これはお金の豊かさが必ずしも心の豊かさにはつなげていないということです。

今は昔より生活は随分豊かになりました。一方、何でもお金で手に入るようになり、世の中にお金が増えるほど、「人の心」は流れなくなり、お金を払う消費者の心は逆に厳しくなっていくようです。

しかし、商品やサービスの本当の価値はお金だけでは測れません。例えば自分が支払うお金に、意識して「心を入れて」みましょう。社会の役に立ち、自分だけではなく人を幸せにするお金の使い方もあります。例えば経済的に恵まれていない国で生産された製品を公正な貿易取引で支援していく「フェアトレード」や、環境負荷の少ない商品選びによる「地球環境にやさしい買い物」など、さまざまな視点もぜひ学んでください。

お金は、人が作った製品やサービスを売買するためだけの手段ではなく、人びとの『ありがとう』という気持ちや信用が形を変え

たものです。生み出された価値に感謝の気持ちを持つことは、とても大切だと私は考えています。皆さんにも、それを自分で考え、判断できる大人になってほしいと思います。

今回のまとめ

- ★確実に儲かる
おいしい話はない
- ★お金を稼ぐとは、働いて
社会に価値を提供すること
- ★本当の価値はお金だけでは
測れない

使うお金に「心」を入れる

個人の意思

健やかに生きたい
環境を守りたい
地域のつながりを大切にしたい
公正な社会を作りたい

無農薬 有機農産物

環境負荷の少ない商品

地産地消

寄付

フェアトレード